



朝霞市版スーパー・シティプロジェクト ～人と緑が生きるウォーカブルなまちづくり～ 地域まちづくり計画



令和6年3月
(令和7年9月更新)

朝霞市



取組の概要

まちづくりにおける課題

- 現在の朝霞駅南口駅前通り(市役所通り)は、車の通行が多く、狭い歩行空間や電柱により歩きづらく、シャッター店舗の増加で活気も減っており、人々が望んで歩きたくなるような通りになっていないことから、歩行者中心の道路空間に再編し、安全で快適に歩ける道へ転換が必要。
- 地域一帯の魅力向上のため、シンボルロードや黒目川など、地域のシンボルとなる緑の拠点の魅力向上や、グリーンインフラの考え方を取り入れた公共空間の整備を行うとともに、駅周辺からの回遊性の向上が必要。
- 災害時に活用可能なエネルギーの確保や、防災情報の効果的な発信を通じた、災害にも強いまちづくりが必要。
- 駅周辺の商店街は店により賑わいや魅力がある一方、一部で空き店舗化も進み、全体として十分賑わっているとは言えない状態。

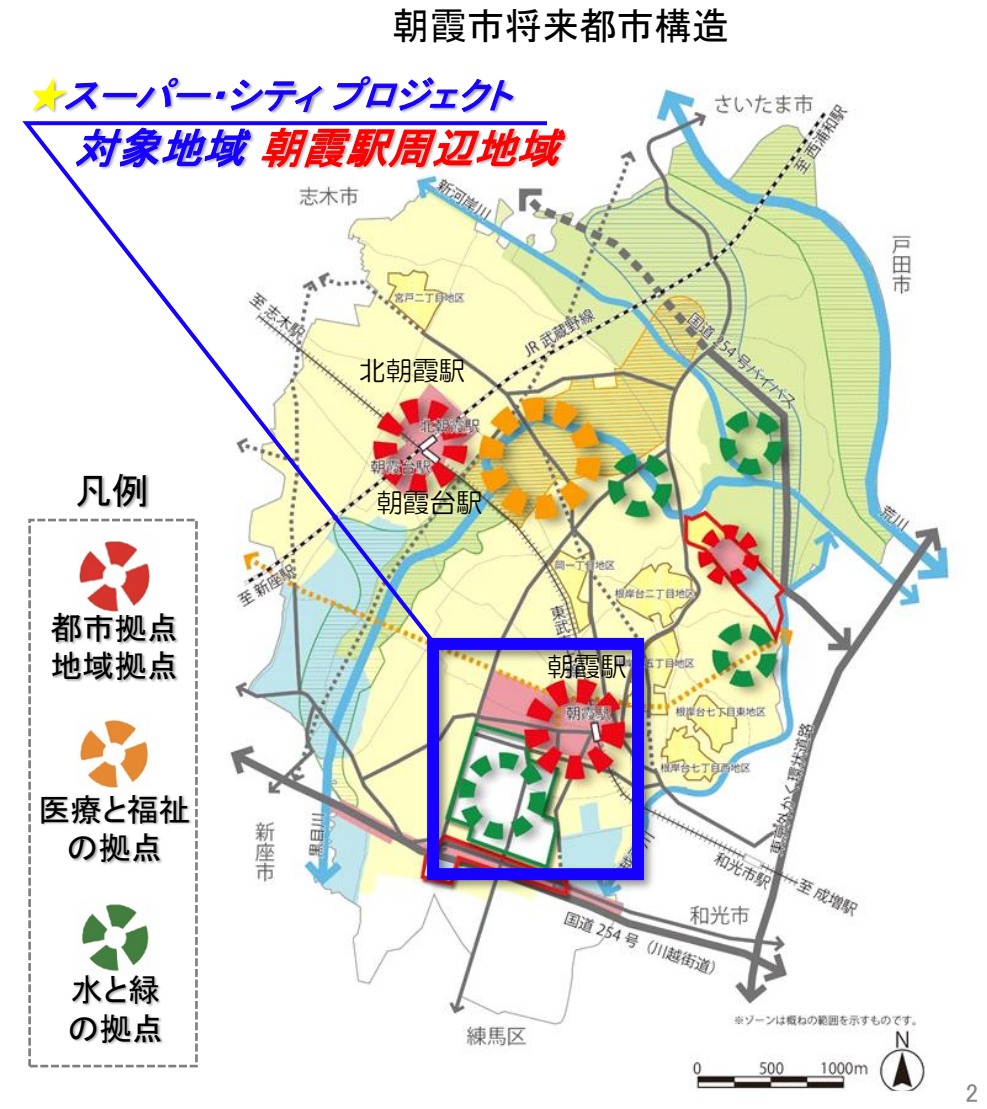
まちづくりの方向性

- 官民連携による公園や街路空間等の利活用や、自然が持つ機能の最大限の発揮を軸に、『居心地が良く、歩きたくなるまち』と、『魅力的な商業エリア』の創出を図る。そのため、
- ①道路空間の再構築や低未利用地の活用を通じた人中心のウォーカブルな空間の創出
 - ②地域のシンボルとなる豊かな自然の機能を活かしたグリーンインフラの整備
 - ③災害時にも機能するフェーズフリーなまちづくりに取り組む。

他の計画における位置付け

- ・第5次朝霞市総合計画後期基本計画
 - ・朝霞市地域公共交通計画
 - ・朝霞市都市計画マスタープラン
 - ・緑とまちなかの魅力向上構想
 - ・朝霞市立地適正化計画★
 - ・朝霞駅周辺エリアビジョンβ版★
 - ・朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画
- ★…特に関連が高いもの

対象地域の位置及び区域 朝霞駅周辺地域



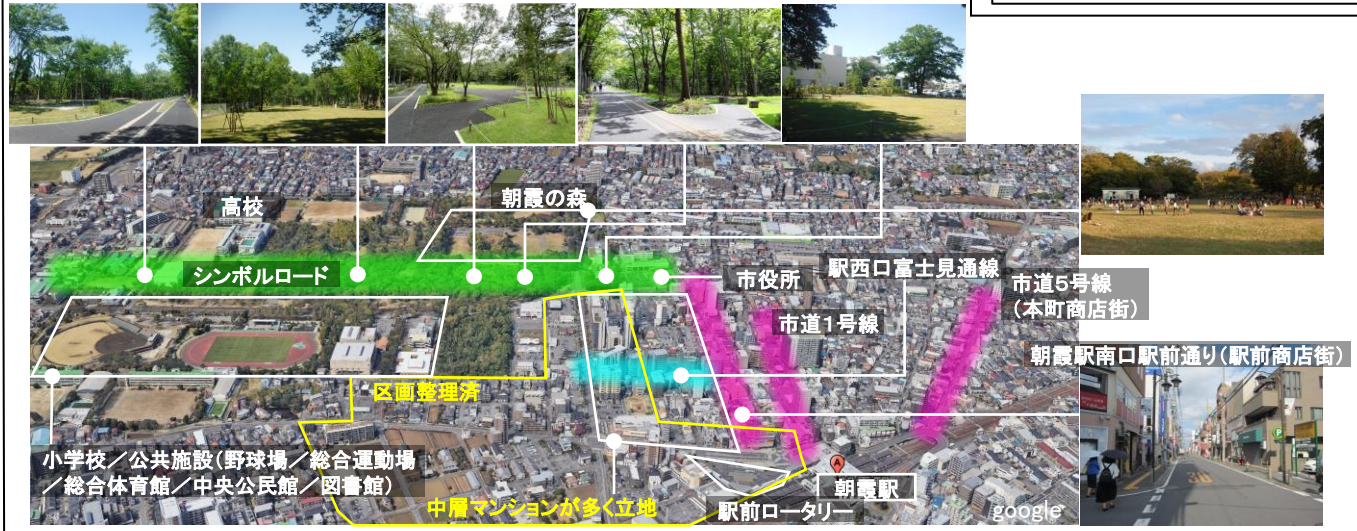
地域の現況

人口・世帯の状況

- **人口**は、今後26年間(～令和32年)は市全体で**微増が続く**見通し。
- 地域の**人口密度**は、令和2年時点で朝霞駅周辺で**200人/ha超**、駅からやや離れた地域でも80～120/haと、DID(人口集中地区)の密度基準(40人/ha)を大きく上回る。令和27年でも現在の密度水準以上の人口集積市街地が維持される見通し。
- 当該地域の**高齢化率**は、令和2年時点では大半の地域で20%以下に留まるが、令和27年にはすべての地域で25%を超え、特に朝霞駅周辺の本町2丁目等の一部地域では**30～35%まで高まる**見通し。

開発の状況

- 東京のベッドタウンとして、交通利便性の高い駅周辺を中心に、近年中層マンションや分譲住宅の建設が続いており、比較的若い世代の定住人口が増加中。
- 駅周辺には、市役所を始めとした**公共施設が集中して立地**している。
 - 令和2年の国有地の一部譲渡により、広大な緑のオープンスペースを持つ**シンボルロード**が整備され、地域の魅力の核となっている。
 - エリアの一部は区画整理(H18換地)により都市基盤を整備済み。



地域交通の状況

- 朝霞駅は、池袋まで16分と都心へのアクセスが容易な駅であり、交通結節点として、バスやシェアサイクルなど、様々な交通手段が充実している。
- 公共交通が充実している一方、**道路幅員が狭く、歩道が無い**道路もあり、歩行者にとっては**歩きにくく、滞在しにくい**まちなかとなっている。
- 駅周辺の**道路の課題**として、
 - ① **朝霞駅南口駅前通り**は**狭い幅員**の中で**バスが相互通行**し、歩行者空間の確保も不十分で、交通安全上**危険な状態**となっている。
 - ② **駅西口富士見通線**は、交差点で事故が発生しており、車や歩行者の往来がかなり少ない状態でもあることから、**交通安全対策**に加え、**車道部分を歩行・滞留空間に再分配**などの**有効活用**を検討する必要がある。
 - ③ **シンボルロード**は広い緑地を備えているものの、道路であることから平時の**賑わい施設がなく**散歩等の利用にとどまっており、地域の核となる賑わい拠点とするため、利活用促進の仕組みづくりの必要がある。



地域資源

- シンボルロード周辺は、武蔵野の豊かな自然が広がり、まちの中でゆとりや安らぎが感じられる稀有な魅力スポットとなっている。
- 駅前広場やシンボルロード、朝霞の森など、利活用次第でまちなかの魅力向上につながるオープンスペースが多い。
- 彩夏祭、アサカストリートテラス、ちいさなテラス、朝市、移動式プレーパーク、農業祭など個々のイベントが盛んに行われている。
- 米軍基地時代から根付いているジャズや、本田美奈子・尾崎豊にゆかりがあるなど、音楽のまちとしての文化・歴史がある。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

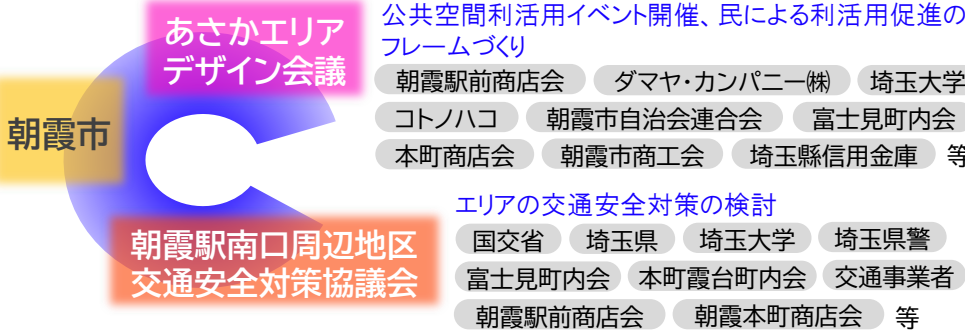
中心市街地としての**生活利便性の高**さと、その生活圏の中に**豊かな自然**がある魅力を活かし、人の生活と自然がバランス良く調和したまち”**むさしのフロントあさか**”での**居心地良い**まちなかの実現を目指す。

人と緑が活きるウォーカブルなまちづくり

- ★人中心の道路空間整備を通じて、人も自然も両方大事にし、居心地良くゆったり歩いて滞在もできるまちなかへ
(未来コンセプト：～マイホームあさか～)
- ★ICT技術を活用して情報伝達や移動手段を充実させ、将来の便利で豊かな暮らしに対応
- ★まちなかにグリーンインフラや再生可能エネルギーを中心とした人と環境に優しい防災・減災対策を取り入れ、中心市街地としての暮らしの安心・安全と低炭素化を両立

推進体制

朝霞市、あさかエリアデザイン会議(官民連携エリアプラットフォーム)、朝霞駅南口周辺地区交通安全対策協議会などの産官学で連携し、朝霞駅南口駅前通りのウォーカブル化や、周辺道路を含めた面的な交通安全対策、公共空間の利活用イベントの開催等を通じて、”**人と緑が活きる**”居心地良く賑わいのある空間づくりを推進していく。



事業全体の概要

コンパクト ウォーカブルなまちづくり

- 道路空間の再配分と無電柱化による**人(歩行者や滞在者)中心の道路空間整備**
- 緑の拠点であるシンボルロードの**ほこみち指定**による賑わい向上や黒目川の魅力発信
- 公共空間を活用した多彩な**イベント開催**
- 駅周辺空き**店舗等**の改善による商店街の**活性化支援**



人中心のまちづくりイメージ
(左: 神戸市葺合南54号線、右: 道後温泉駅前)



ちいさなテラス
(公共空間活用イベント)



賑わい向上のための道路上の常設店舗設置イメージ

スマート ICT技術を活用した情報伝達や移動手段の充実

- デジタルサイネージ等を活用した地域イベント情報や災害情報の発信
- ビッグデータやデバイス等ICT技術を活用した交通安全対策と回遊促進
- シェアサイクルサービス(ステーション)の高度化
- 都市計画情報等、まちづくりに係るデータのオープン化



モビリティステーション
イメージ(Open Street株)

レジリエント 災害にも強いフェーズフリーなまちづくり

- グリーンインフラの多面的機能(雨水浸透による水害の減災や温暖化緩和等)を取り入れたインフラ整備
- 再生可能エネルギーを活用した災害時の電源確保
- 主要道における無電柱化の推進



グリーンインフラ

計画図

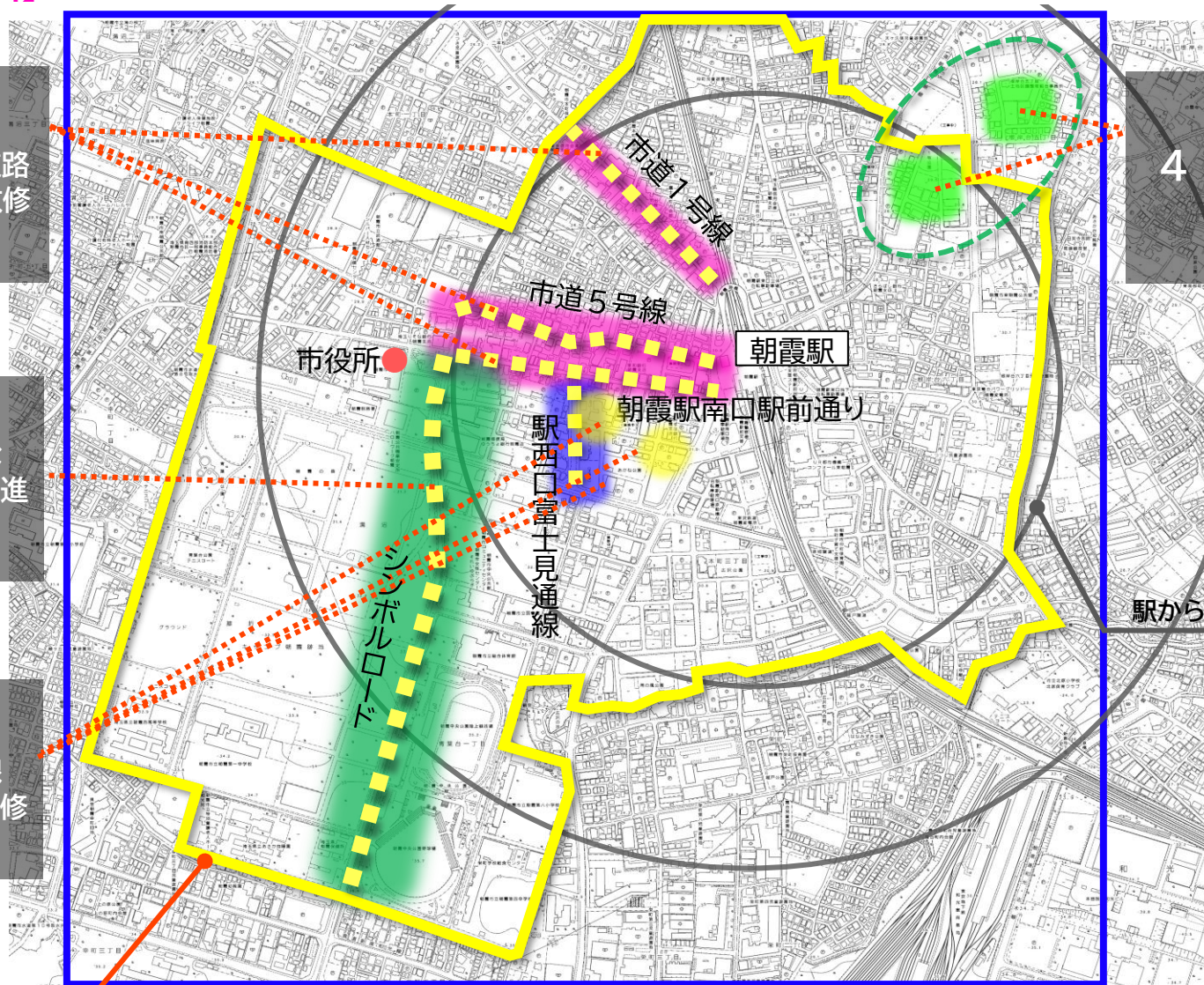
【主な事業の位置図】

1 朝霞駅周辺主要道路
のウォーカブル改修

2 公共空間の多様な
利活用と、その促進
の仕組みづくり

3 駅西口富士見通線
及び公共空地の改修

4 まぼりみなみ／まぼ
りひがし公園の整備



駅から約800m
(徒歩圏内)

駅から約500m (高齢者徒歩圏内)

ウォーカブル推進区域(※)

スーパー・シティプロジェクト対象地域

※朝霞市立地適正化計画における都市機能誘導区域+都市機能補完ゾーン

計画図

主な事業1: 朝霞駅周辺主要道路のウォーカブル改修

コンパクトスマートレジ

交通を整理し、歩く人を大切にするみちへ～

現状

人の通行量が多く、歩行スペースが不十分な中をバスが相互通行しているなど危険な状態となっており、対策を求める声が非常に多い状況。



朝霞駅南口駅前通り市道1号線市道5号線

実現に向けて

朝霞駅南口駅前通りを人中心の道へ改修するとともに、周辺市道（市道1号線・5号線等）を含めた面的な交通安全対策を行う。

- 駅前通り等の無電柱化
- ETC2.0による車の運転データ（速度超過や急ブレーキ含む）やシェアサイクルの走行データを活用した潜在危険箇所の特定と交通安全対策
- スマート技術による歩行者交通安全対策の導入可能性検討（ライジングボード等）

グリーンインフラ、ファニチャーの設置

人中心の道づくりや補助金を通じて、通りの回遊性、景観、空き店舗を改善し、商店街の活性化を支援

将来イメージ(一例)

車中心→人中心の道へ転換



ボンエルフ（生活の庭）方式
～車も歩行者の速度で～



（埼玉大学提供）

笹塚十号通り商店街



広島県福山市とおり町
ストリートガーデン



主な事業2: 公共空間の多様な利活用と促進の仕組みづくり

コンパクト

公共空間(オープンスペース)を利活用し、まちなかに新たな魅力を創出～

現状

令和4年4月に官民連携まちづくり組織「あさかエリアデザイン会議」を構築し、まちなかの公共空間を利活用した賑わい創出についての実証実験を始めているところ。



アサカストリートテラスあさか冬のあかりテラスちいさなテラス

実現に向けて

官民連携で日常を彩る多彩なイベントを開催し、まちなかに持続的な賑わいと魅力を創出する自立自走の体制づくり

エリア内の各オープンスペースで、民が自由にイベントや出店を行えるよう利活用を促進する仕組みづくり

シンボルロードをほこみち指定し、利便増進施設を設置

将来イメージ(一例)

地域資源であるシンボルロードの利活用拡大



駅前通りでのテラス営業



計画図

主な事業3: 駅西口富士見通線及び公共空地の改修 ポイント ポイント

ゆとりの空間を活かして特色あるまちへ～

現状

駅から至近にあり、歩道、車道ともに十分な幅員が確保されているが、現状、車や歩行者の往来がかなり少なく、有効活用されていない。また、中央の交差点で事故が発生しており、交通安全上の課題がある。



実現に向けて

- 駅西口富士見通線の道路空間を再配分し、人の滞在スペースを拡大
- 駅前通りとの連続性や交通安全対策の連携、バリアフリー化
- 付近の公共空地2箇所を、おしゃれで人が滞在できる広場等へ改修
- グリーンインフラ、ファニチャーの設置

将来イメージ(一例)



主な事業4: まぼりみなみ／まぼりひがし公園の整備 ポイント ポイント

平常時には憩いと涼感、非常時に強さを発揮する公園へ～

現状

区画整理後、未整備の状態



実現に向けて

- 緑による憩いとゆとり、雨水貯留浸透機能を確保するグリーンインフラの整備
- 災害発生時に一時的な避難スペースとなる公園の防災性と安全性を強化

将来イメージ(基本設計案)

(1) まぼりみなみ公園

- 誰もが楽しめる多様な遊び空間
- 子供の遊び場、トレーニングエリアや休憩エリアなど多様な利用を受け止める公園
- 雨水を浸透させる雨庭
- シンボルツリーを活かした景観づくり



(2) まぼりひがし公園

- 静かな憩いのガーデン広場、のびのびと遊べる広場の多様な利用
- 地域の水循環と連動する雨庭
- 静と動のゾーン配置

<グリーンインフラシステム整備方針>

- ・ 水害抑制、地下水涵養
- ・ 災害復旧支援
- ・ ヒートアイランド現象の緩和
- ・ CO2の固定
- ・ 生物多様性の向上
- ・ 自然とのふれあいの場の創造
- ・ 遊び場や健康増進の場の創造



【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考		
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降			
朝霞駅南口駅前通り及び周辺市道のウォーカブル改修	市県	安全対策に関する地元要望を踏まえ、接続道路も含めた面的な交通安全対策、美装化、無電柱化、道路空間の利活用について検討し、安全で快適に歩ける道へ転換を図る。	調査・検討・基本設計・実施設計・整備						社会資本整備総合交付金(ウォーカブル推進事業、国交省)を活用予定		
駅西口富士見通線のウォーカブル改修	市	交通安全対策や、車道部分を歩行・滞留空間に再配分する再構築、美装化等を行うことにより、歩きやすくイベント等にも活用できる人中心の道路へ転換を図る。	朝霞駅南口交通安全対策基本構想の策定							社会資本整備総合交付金(ウォーカブル推進事業、国交省)を活用予定	
			基本設計・実施設計	整備		供用開始～					
朝霞消防団第五分団横公共空地他の整備	市	未整備・未活用となっている公共空地について、人が居心地良く滞在できたり、多様なイベントで利活用ができる広場スペースへ改修する。	基本設計・実施設計	整備		供用開始～				社会資本整備総合交付金(ウォーカブル推進事業、国交省)を活用予定	
シンボルロードへの歩行者利便増進施設の設置	市	シンボルロードを歩行者利便増進道路(通称ほこみち)へ指定し、食事施設や休憩施設を設置することで、空間の利活用の増進や黒目川グリーントレイルと連携した賑わい創出を図る。	利便増進施設の設置								埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定
			施設運営(実証実験)		施設運営(本格供用開始)						
			公共空間の利用ルール検討→利用ガイド作成		随時改訂						
公共空間を活用した賑わいイベントの開催と商店街の活性化支援	あさかエリアデザイン会議市	商店街等と連携して、シンボルロードや道路等の公共空間(オープンスペース)を活用した各種賑わいイベントを開催する。 ◆アサカストリートテラス ◆ちいさなテラス ◆あさか冬のあかりテラス他また、補助金による空き店舗対策等を通じて商店街の活性化を支援する。	賑わいを創出する各種実証実験イベントを開催(官民連携)		賑わいを創出する各種イベント開催(官民連携)						
			アサカストリートテラス								
			空き店舗を改善し、商店街の活性化を支援(補助金等)								

【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降	
ICTを活用した地域イベント情報や災害情報の発信強化	市	デジタルサイネージ等のICT技術を活用して、地域イベント情報や災害情報の配信を強化するとともに、行動データの把握により、まちなかの回遊促進につなげる。	調査・検討						
ビッグデータやデバイスを活用した交通安全対策と回遊促進	市	ワークショップでの意見やビッグデータ(ETC2.0等)の活用、交通量調査の結果を踏まえた交通安全対策と回遊促進を図る。	調査・検討	安全性向上の検証					
シェアサイクルサービス(ステーション含む)の高度化	市事業者	充電ポートの設置、再生可能エネルギーの活用、シェアサイクル利用データの活用等によりシェアサイクルサービスを高度化し、移動環境の充実を図る。	事業検討						
GISの導入・活用	市	都市計画情報や災害ハザード情報等のまちづくりに係るデータをオープンデータ化する。	オープンデータ化・運用・活用 (まちづくり情報のデジタル化による行政DXの推進・住民等の利便性向上)						デジタル田園都市国家構想交付金(内閣府)を活用

9

【レジリエント】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R112降	
グリーンインフラの整備	市	駅周辺主要道路のウォーカブル化に併せて、平時には花や緑に身近に親しみ、災害時には雨水浸透の防災・減災機能を持つ各種グリーンインフラを整備する。	駅西口富士見通線へのグリーンインフラ整備検討	整備		活用			
				朝霞駅南口駅前通りへのグリーンインフラ整備検討		整備			
まぼりひがし／まぼりみなみ公園の整備による防災機能の付加	市	平常時の環境向上に加えて、非常時の防災性向上にも寄与するハイブリッドの機能を付加する。(かまどベンチ、マンホールトイレ、防災井戸、倉庫スペース等)	開園	賑わいの創出・災害時の活用					〔上段：まぼりひがし公園〕 〔下段：まぼりみなみ公園〕
				工事	開園	賑わいの創出・災害時の活用			
災害時でも途絶えない電源の確保	市	公共施設の新設や大規模改修に合わせて、災害時の活用等も含めて太陽光発電設備等の再生可能エネルギー設備の導入を推進します。		公共施設の新設や大規模改修に合わせた導入推進の検討					
朝霞駅周辺道路の無電柱化	県市	災害時の電柱倒壊被害の防止や安全で円滑な交通空間の確保、景観の向上等を目的として、緊急輸送道路である朝霞駅南口駅前通り(市役所通り)と駅西口富士見通線の無電柱化を行う。		調査・検討・基本設計・実施設計・整備					

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	最新値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	居住を誘導する区域における人口(市全体)	140,874人(R3年度)	143,635人(R6年度)	144,800人(R9年度)	「朝霞市立地適正化計画」(都市再生整備計画)の指標に基づく
コンパクト	朝霞駅の1日平均の乗降客数	55,000人/日(R2年度)	65,000人/日(R5年度)	57,000人/日(R9年度)	「朝霞市立地適正化計画」(都市再生整備計画)の指標に基づく
コンパクト	市役所通り(朝霞駅南口駅前通り)の歩行者の通行人数(休日午後)	778人/時間(R4年度)	— (R8年度調査予定)	860人/時間(R9年度)	「朝霞市立地適正化計画」(都市再生整備計画)の指標に基づく
スマート	GISでオープンデータ化する災害情報の数	0災害(R5年度)	4災害(R7年度)	11災害(R27年度)	「朝霞市立地適正化計画」の指標に基づく
レジリエント	避難路・輸送道路確保のため無電柱化した道路長さ	—	0m(R7年度)	1,684m(R27年度)	「朝霞市立地適正化計画」の指標に基づく